

【浦戸大橋点検にドローン 県が導入 対象拡大へ】



浦戸大橋点検にドローン

県が初導入 対象拡大へ

県は高知市の浦戸大橋の定期点検に、県管理の橋梁としては初めてドローンを導入した。写真。従来は作業員が命綱を頼りにロープで降下して点検していたが、ドローンの活用で安全性向上と工期短縮が可能に。県は他の橋梁などにも活用を広げたい考えで、22日は土木事務所職員ら約30人が点検現場を見学した。

今回の点検には、1億画素を超える高解像度カメラを搭載したドローンを使用した。県から委託を受けた

大阪市の業者が、ドローンを旋回させて橋脚(高さ約40m)1本につき約200枚の写真撮影。ひび割れやさびなどがなければ確認した。

県によると、命綱を頼りに人が行う従来の作業は、移動や安全対策などに長時間を要していたが、ドローンの活用で工期が半分程度に短縮できるという。

県道路課の寺田三晴チーフは「画像の鮮明度(解像度)が高く、きれいに映っていた。今後もドローンを活用していきたい」として

いる。国は2級以上の道路橋やトンネルなどを5年に1度、近接目視などで点検することを義務付けている。

(乙井康弘)